生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター北遠中央担当圏域レベル）開催報告書

１　開催日時	令和　６年　8月　20日　（火） 14時00分　～　15時30分
２　開催場所	龍山森林文化会館２階学習室
３　参加者	

委員10名
関係機関12名（浜松市高齢者福祉課：2名、天竜福祉事業所長寿保険課3名、地域包括支援センター北遠中央2名、市社協地域支援課1名、市社協天竜地区センター4名

４　協議の内容

1. 開会

2.あいさつ
・浜松市高齢者福祉課

3.ふりかえり
・令和５年度第３回生活支援体制づくり協議体北遠中央圏域の内容の振り返り

4.近況報告
○各地区部会の活動状況の報告
【佐久間】
・「さくま安心だ和いネット」及び「さくま安心だ和いネット連絡会」の目的や立ち上げの経緯について確認を行い、今後の方針について意見交換を行った。
・「さくま安心だ和いネット連絡会」開催に向けての検討
・「ご近所サポーター養成講座」の進捗状況の共有

【水窪】
・「水窪あんしんネットワーク連絡会」の成り立ちや目的について確認を行った。
・水窪中学校での認知症サポーター養成講座の打ち合わせ状況の情報共有。
→今回関わる中学生や父兄、学校との関係を途切れさせない工夫について検討
・ささえあいポイント事業登録ボランティア交流会開催内容について。

【龍山】
・地域住民へのアンケート結果について検討した。
・アンケート結果の中でたつやマルシェに関することを企画に活かす。

○地域で感じた気になったこと　地域の介護保険事業所の現状について
・施設では職員の高齢化や減少によりニーズがあっても希望通りのサービス提供が難しい状況がある。
・さくまの里、ふれあいデイサービス、みさくぼの里、龍山デイサービスセンターの状況を共有

・水窪の門桁や大野地区などは片道 30 分程度かかるため、デイサービスや、ホームヘルパーの利用は難しい面がある。

・門桁や、大野地区では地域住民と繋がりがないと生活は難しいと感じる。
・周りが心配して声掛けをしても本人から拒否されると、以後遠慮して声をかけられなくなる。自分の親の世代は心配するとすぐ電話をかけて様子を聞いていたが、今は、そのようなことがなかなかできない。
・最近では、共働き夫婦の世帯などが地域とのかかわりがほとんどない状態で定年を迎え、地域から孤立した高齢者のみの世帯となる当面は自分たちで困りごとも対処できるが早めに地域と繋がりを持てないと地域での生活がままならなくなると思う。共働き世帯の定年後の地域デビューが課題となる。地域とかかわりを持てない人が増える一因になるだけでなく、地域からの関わりに対して拒否感を持つことがあるように思う。

・地域のイベントをコロナ後久々に行ったが思いのほか高齢者が来てくれない。
・高齢者の特徴かもしれないが、イベント開始当初は来てもだんだん参加しなくなる。
・若者は内容が合うと、地域のイベントに継続的に来てくれるように思う。

５　今後の見通し・必要な対応

次回の生活支援体制づくり協議体北遠中央は佐久間、水窪、龍山のすべての委員が参加するいどばたサミットを11月に行う予定。